馬毛島基地の施設配置案、種子島の施設整備、環境保全措置の検討状況について

自衛隊馬毛島基地に関する施設配置案、種子島の施設整備及び環境保全措置について、現時点における検討状況を取りまとめました。引き続き、詳細な検討や環境影響評価に係る調査・予測・評価を進めてまいります。

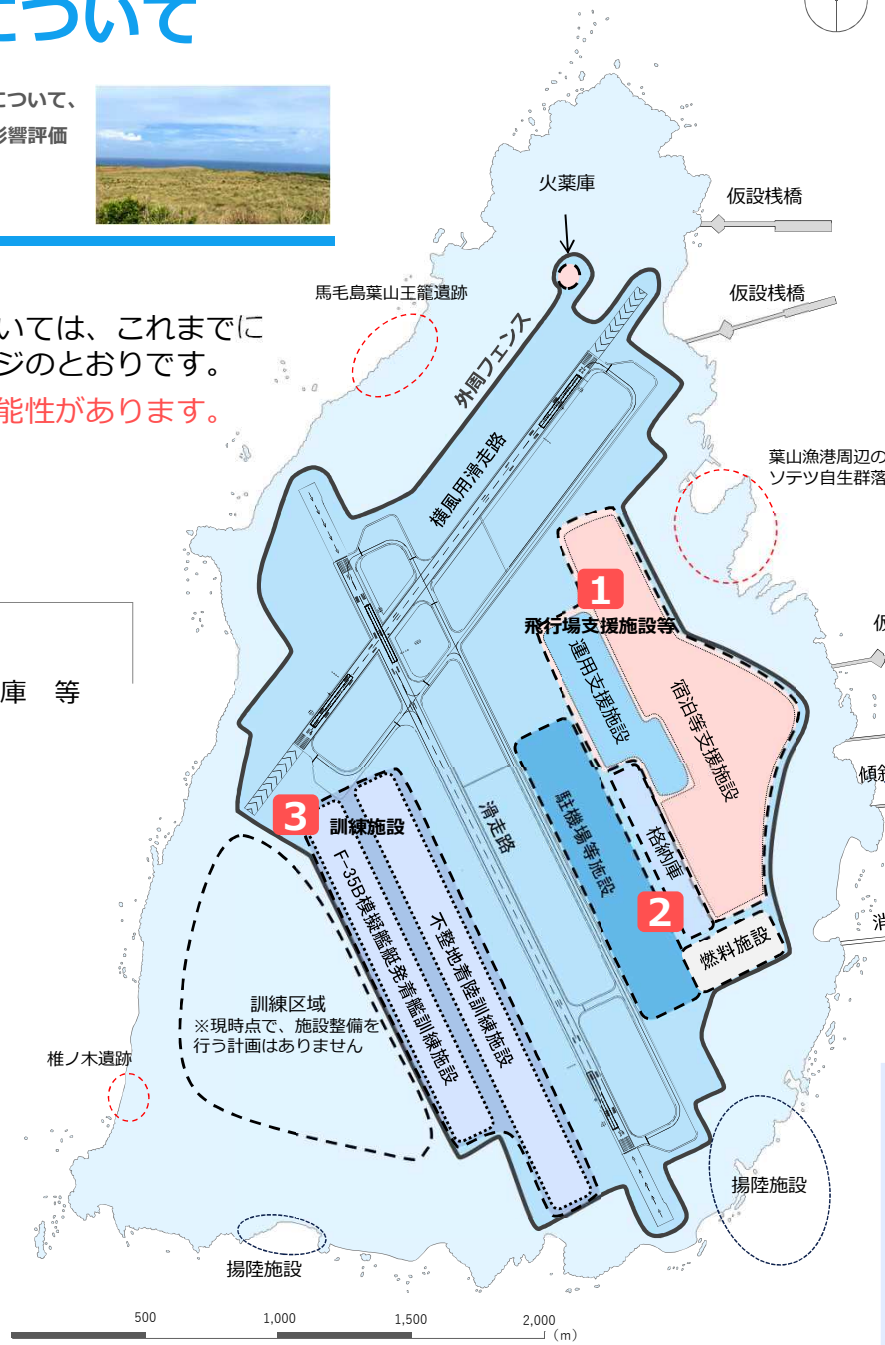
※「自衛隊馬毛島基地」は仮称です

馬毛島基地の施設配置案

自衛隊馬毛島基地の馬毛島における施設配置案については、これまでに実施した詳細な検討等を踏まえると、右図のイメージのとおりです。

今後の詳細な検討の中で、位置や形状は変更する可能性があります。

▼馬毛島の施設配置案



※　外周フェンスの外側に、島の維持管理のための道路や濁水が海に流れないようにするための調整池等を整備します。

※　島内には、一部、市有地や民有地が所在しています。

※　岳之腰は、平坦に整地を行います。

飛行場支援施設等の配置案

1　飛行場支援施設等

基地の運用支援に必要となる施設（運用支援施設）：

管制塔、庁舎、通信局舎、飛行管理棟、補給倉庫、消防車庫　等

隊員の宿泊等のための施設（宿泊等支援施設）：

隊舎、食堂、浴場、厚生施設、体育館　等

管制塔

庁舎

隊舎

※写真はすべてイメージです

2　駐機場等施設・燃料施設・格納庫

駐機場

燃料施設

格納庫

3　訓練施設

模擬艦艇発着艦訓練(F-35B)

不整地着陸訓練（C-130）

種子島の施設整備

自衛隊馬毛島基地を整備するにあたっては、種子島において、自衛隊馬毛島基地の一部として、馬毛島の施設の安定的な運用及び適切な維持管理を目的とした施設を整備することとしています。

今後、関係機関等との調整を経て、決定していくこととなります。

安定的な運用・適切な維持管理のための施設

中種子町には、**管理事務所、練成訓練施設、物流倉庫**を、南種子町には、**車庫、車両整備工場、自衛隊ヘリポート**を整備する予定です。
今後、これらの施設の設置場所等について検討を進めていきます。

管理事務所

種子島における業務のために使用するほか、悪天候時に馬毛島に渡れない場合における基地機能の維持及び施設管理等のために設置。

練成訓練施設

自衛隊員の練成訓練、悪天候時に馬毛島に渡れない場合における活動拠点のために設置。
また、地域住民との交流の場としても活用。

物流倉庫

応急用資機材の保管や種子島において調達した資材や食料品の一時的な保管のために設置。

車庫

通勤車両など、種子島において使用する自衛隊車両を保管するために設置。

車両整備工場

通勤車両など、種子島において使用する自衛隊車両の維持管理のために設置。

自衛隊ヘリポート

人員や物資の輸送のために設置。

宿舎・港

自衛隊馬毛島基地に恒常的に勤務する自衛隊員は、**150名～200名**程度を見込んでおり、自衛隊員とその家族は、**種子島に整備する宿舎に居住**することとしています。

自衛隊員等の宿舎の配置

- 宿舎は、**西之表市、中種子町、南種子町**に配置する計画です。
- 具体的な設置場所等は、種子島内での用地調査をもとに、部隊運用、交通の便、周辺環境などの様々な条件を考慮し決定します。

港の活用

- 通勤のために、種子島～馬毛島間を運航する定期便を、民間業者に委託する予定です。
- 中種子町の**浜津脇港**は、種子島の中央に位置し、宿舎との位置関係等を踏まえ、**通勤港**として活用したいと考えています。
- また、港の利用状況に応じて、**西之表港**などの港も活用する計画です。

※写真はすべてイメージです

**将来、種子島内に、多くの自衛隊員とその家族がお世話になります。
島民の皆様とより良い関係を築いていきたいと考えています。**

馬毛島基地の環境保全措置

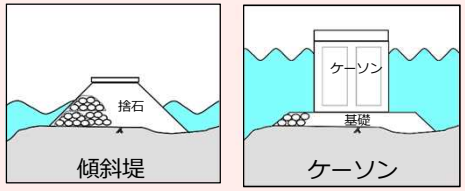
港湾施設の配置における環境保全

港湾施設は、**海域生物に配慮した構造**とします。

4 仮設桟橋

仮設桟橋の土台は、**イセエビやナガラメの生息場となる構造**を検討しています。

▼構造のイメージ



▼ケーソンの基礎

5 係留施設等

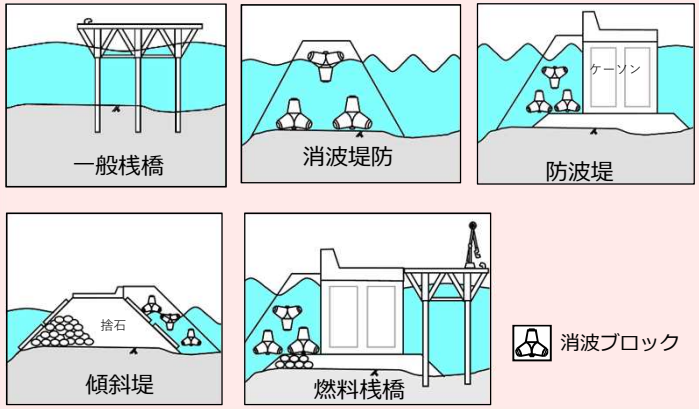
補給艦等が接岸する一般桟橋は、海底の浚渫の必要がない位置に配置し、**環境への負荷を必要最小限**にします。

また、一般桟橋や消波堤防は、**海域生物の生息範囲を確保するため、海水の出入りが可能な構造**を検討しています。

防波堤等に使用する消波ブロックは、ナガラメ等のえさとなる**海藻やサンゴが着生し繁茂しやすいよう凹凸を設けた表面形状**とすることなどを検討しています。

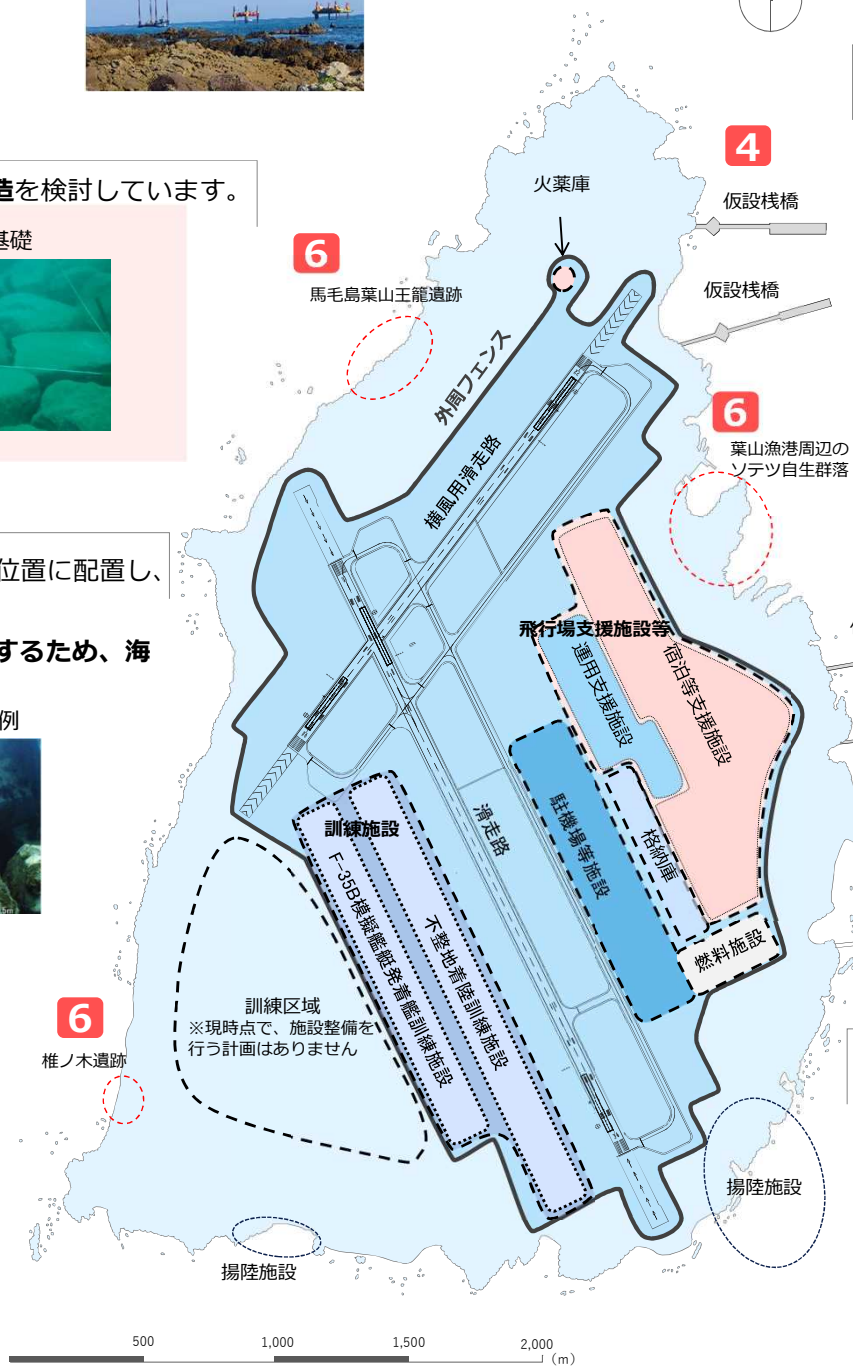
▼サンゴ着生の事例

▼構造のイメージ：
海上ボーリング調査の結果等を踏まえて構造を決定します



※写真はすべてイメージです

▼馬毛島の施設配置案



遺跡・天然記念物等の保全

6 遺跡・天然記念物

馬毛島葉山王籠遺跡、椎ノ木遺跡や葉山漁港周辺のソテツ自生群落には、施設を整備せず、**現状のまま**とする予定です。

天然記念物のオカヤドカリ類については、**工事実施前に工事実施エリア外に移動**するとともに、**工事実施エリアに進入することを防止**する措置を検討しています。

馬毛島葉山王籠遺跡

ソテツ自生群落

ナキオカヤドカリ

ヒメノボタン

その他

ウミガメの上陸が確認されている西側の海岸を保全します

島の西側の海岸においては、ウミガメの上陸が確認されています。この海岸に施設整備は予定していないため、**現状のまま**とする予定です。

貴重な植物等を保全します

ヒメノボタンをはじめとする重要種については、生育状況や工事等による影響を踏まえ、**工事を行わない場所に移植するなどの保全措置**を検討しています。

※管理用道路は、馬毛島基地とは別に整備するものであり、環境影響評価の対象ではありませんが、工事に当たり貴重な植物等の保全に努める考えです。

航空機の騒音に関する環境保全

環境影響評価では、自衛隊機及び米軍機の音響データ、飛行回数、飛行経路等を基に、ＦＣＬＰ等による騒音の状況を予測します。
その予測と航空機騒音にかかる環境基準を比較し、騒音の影響を評価します。

▼音響データ

実際の音の測定結果等を踏まえ、航空機（音源）からの距離と音の状況データを作成します

ＦＣＬＰについては空母艦載機（ＦＡ－１８等）の、自衛隊の訓練については自衛隊機の実際の音の測定結果等を踏まえて作成します。

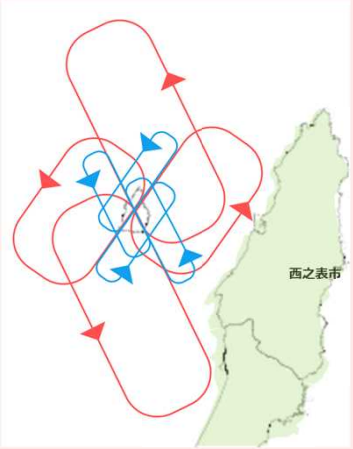
▼飛行回数

訓練所要や飛行実績を基に、馬毛島における１日の標準飛行回数を設定します

ＦＣＬＰについては硫黄島における飛行実績を基に、自衛隊の訓練については訓練所要（見込み）を基に設定します。

▼飛行経路

ＦＣＬＰ等の飛行経路や訓練範囲はこれまでお示ししてきたとおりです

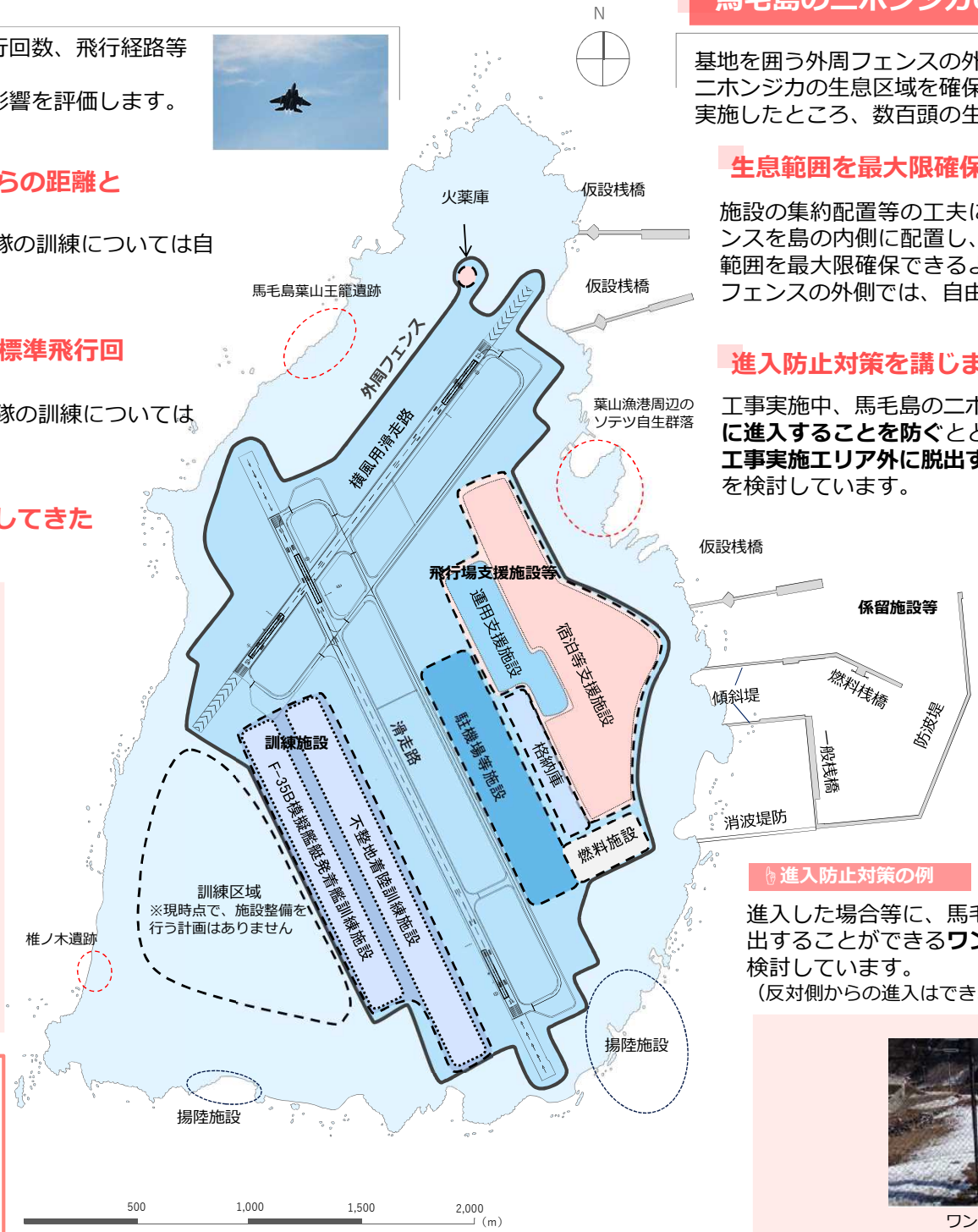


【ＦＣＬＰ飛行経路】
- 有視界飛行方式
- 計器飛行方式

航空機騒音の影響について、現段階では、環境基準を超える区域は種子島に達することはないと考えられます。

今後、更に精査し、準備書において環境基準に基づく、騒音の影響の範囲をお示しする予定です。

▼馬毛島の施設配置案



馬毛島のニホンジカの保全

基地を囲う外周フェンスの外の区域において、馬毛島のニホンジカの生息区域を確保する考えです。現況調査を実施したところ、数百頭の生息を確認しています。

生息範囲を最大限確保します

施設の集約配置等の工夫により、可能な限り外周フェンスを島の内側に配置し、馬毛島のニホンジカの生息範囲を最大限確保できるように検討しています。外周フェンスの外側では、自由に行き来が可能です。

進入防止対策を講じます

工事実施中、馬毛島のニホンジカが**工事実施エリア内に進入することを防ぐ**とともに、**進入した場合等にも、工事実施エリア外に脱出することができる**よう、対策を検討しています。

馬毛島のニホンジカ

進入防止対策の例

進入した場合等に、馬毛島のニホンジカが外に脱出することができる**ワンウェイゲート等**の設置を検討しています。
（反対側からの進入はできない仕組み）

ワンウェイゲート

※写真はイメージです